

岐阜県美濃加茂市（国内 34 例目）の高病原性鳥インフルエンザ発生農場に係る  
疫学調査チームの現地調査概要

令和 3 年 1 月 2 日に実施した現地調査により、以下のことを確認した。

1 農場の周辺環境

- ① 当該農場は平野部に位置し、付近は田畑と雑木林に囲まれており、農場敷地の南側にはため池が隣接している。
- ② 農場周辺にはため池がいくつか点在しており、農場に隣接するため池ではコガモ 72 羽、マガモ 26 羽、ミコアイサ 16 羽等、140 羽以上の水鳥類が確認された。
- ③ 当該農場には成鶏舎 5 棟（高床式セミウィンドレス鶏舎）と育雛舎 2 棟（低床式ウィンドレス鶏舎）の計 7 棟があり、発生鶏舎は 2 棟の育雛舎のうち、農場中央側の育雛舎であった。なお、2 棟の育雛舎は鶏舎奥側の屋外通路繋がっており、5 棟の成鶏舎も屋内外の通路で繋がっている。発生時には、すべての鶏舎で採卵鶏が飼養されていた。

2 通報までの経緯

- ① 飼養管理者によると、発生鶏舎における 1 日あたりの死亡鶏は、令和 2 年 12 月 19 日以降 0~2 羽程度で推移していたとのこと。
- ② 令和 3 年 1 月 1 日に、発生鶏舎奥にある育雛舎を繋ぐ屋外通路の扉付近の同一ケージで 2 羽の死亡鶏を確認し、当該ケージ及び隣接するケージでも沈鬱を示す個体が複数羽認められたことから、管理獣医師に相談した後、家畜保健衛生所に通報したとのこと。
- ③ 家畜保健衛生所の通報後、当該ケージでさらに 3 羽が死亡し、背面の列の近隣のケージにおいても同一ケージで 10 羽程度の死亡鶏が認められたとのこと。

3 管理人及び従業員

- ① 当該農場では 4 名の従業員のうち 1 名が鶏舎内の飼養管理に携わっており、飼養管理者によると、毎日、鶏舎において鶏の健康観察を行っているとのこと。
- ② この他の 3 名の従業員のうち 2 名は集卵作業に、もう 1 名は集卵作業及び施設管理に従事しており、鶏舎に入ることはないとのこと。

4 農場の飼養衛生管理

- ① 飼養管理者によると、従業員は農場専用の作業着と長靴を使用しており、育雛舎においては 2 棟共通の作業着及び長靴に交換を行っていた。各鶏舎入口には消石灰を散布していたが、鶏舎を繋ぐ通路には消石灰の散布や踏み込み消毒槽の設置はしておらず、鶏舎毎の手指消毒は実施していなかったとのこと。
- ② 鶏舎横には飼料タンクが設置されているが、当該タンク上部には蓋が設置されており、タンク内への野鳥等の侵入やタンク内の飼料への野鳥の糞等の混入の可能性は低い状況であった。
- ③ 飼養管理者によると、飼養鶏への給与水は井戸水を使用しており、消毒は実施していないとのこと。なお、水のくみ上げ時点から各鶏舎の配水まで外気に触れることはないとのこと。
- ④ 発生鶏舎の鶏糞は除糞ベルトで鶏舎外に搬出され、農場内の堆肥化施設で堆肥化される。なお、鶏糞の一時置き場と堆肥化施設には防鳥ネットは設置されていなかった。
- ⑤ 健康観察時に回収した死亡鶏は、鶏糞とともに農場内で堆肥化処理している。
- ⑥ 飼養管理者によると、鶏舎ごとにオールイン・オールアウトを行っており、オールアウトのたびに鶏舎内の清掃・消毒を行っているとのこと。

- ⑦ 飼養管理者によると、今年 12 月以降、農場入口から鶏舎入口の道に消石灰を散布し、消毒を行っていたとのこと。
- ⑧ 飼養管理者によると、車両が農場敷地内に出入りする際は、石灰帯を通過しているとのこと。
- ⑨ 発生鶏舎の鶏舎構造は、鶏舎側面の壁に設置された換気扇から排気し、天井に設置された通風口から入気するタイプの鶏舎であった。換気扇の外側には開閉可能な板が設置されており、換気扇が停止する際にはこの板が閉まる。通風口の開口部には金網が設置されており、換気扇が停止する際には通風口の開口部は閉じる。

## 5 野鳥・野生動物対策

- ① 飼養管理者によると、農場敷地内でネコやカラスを見かけることがあるとのこと。調査時には、農場敷地内でネコが確認された他、鶏舎下の鶏糞置き場にキセキレイが侵入していることを確認した。
- ② 飼養管理者によると、鶏舎内でネズミを見かけることがあるとのこと。粘着テープによるネズミ対策を実施しているとのこと。調査時には、発生鶏舎でネズミの足跡や糞が確認された他、多数のネズミが確認された。
- ③ 発生鶏舎の壁面には小型の野生動物が侵入可能な 3cm 以上の隙間が散見された。
- ④ 飼養管理者によると、鶏糞を搬出するベルトコンベアの鶏舎側の開口部は、運転時以外は板で閉じられているとのこと。